

## 校則の見直し等に関する生徒との話し合いの場の設定について（県立高等学校）

## 1 全日制課程（40校、分校も1校としてカウント）

## (1) 話し合いの場の設定

## 〔設定回数〕

回数	3回以上	2回	1回
校数	6校	3校	31校

## 〔主な参加教職員〕

参加教職員	校長	副校長・教頭	主幹教諭	分掌主任
校数	6校	26校	7校	40校

- 主な分掌主任としては、生徒指導主任、特別活動主任、その他としては、学年主任、人権教育主任、保健・教育相談主任等
- その他の参加教員としては、生徒会担当教員等

## 〔主な参加生徒〕

- 大半の学校において生徒会執行部役員が参加
- その他としては、各HRの長や学年代表等

## (2) 主な話し合いの項目

項目	頭髪に関する事	下着・インナーに関する事	制服に関する事
校数	36校	13校	18校

- 生徒からの主な見直し要望項目
  - ・頭髪に関する事…ツブブロック、長さの規定、表現の曖昧さ等
  - ・下着・インナーに関する事…色の限定（白色）等
  - ・制服に関する事…女子の制服がスカートに限定されていること等
- その他、話し合いの項目で多かったものとしては、靴下の色、登下校時の服装（制服以外の体操着や部活動ユニホームの着用等）、防寒具の種類（色、デザイン等）、スマートフォンの校内での使用規定等
- これら具体的項目以外にも、学年間や男女間での規準や検査方法の統一を求める要望あり

## (3) 校則の見直し

今後の見直し	すでに開始	予定あり	予定なし
校数	14校	21校	5校

- 見直しの予定のない学校の理由としては、多くの生徒が現状の校則を肯定的に捉えていることを挙げている。ただし、これら5校の学校においても、今年度中に具体的な見直しが予定されていないだけで、生徒総会で出された要望を毎回検討したり、今後も生徒からの要望に対しては、継続して協議・検討することを生徒に伝えたりしている
- すでに見直している、または今後見直しを検討している学校の主な項目としては、下着や靴下の色、女子のズボン等制服に関する規定、防寒具の規定、登下校時の服装等  
頭髪の見直しについては今後の検討課題としている学校が多い

(4) 話し合いの場をとおして、生徒の主体性を培うことにつながった点（主なもの、要約）

- 自分と異なる考え方に触れたり、共有できたりしたことに意義を感じるようになった。
- 校則が定められている背景を考えようとするようになった。
- 卒業後の社会生活を視野に、その必要性を考えたり、話し合ったりするようになった。
- 自分の学校の特徴や伝統に基づき、その必要性を考えたり、話し合ったりするようになった。
- 「制服の男女規定をなくす。LGBTQの人たちへの対応を考えるべき」等、性差による違いを問題視するようになった。

(5) 話し合いの場を受け、教員側が感じた点（主なもの、要約）

- 生徒自身の思いや考えを知るよいきっかけになった。
- 校則について学校と話し合うことは、生徒が成長できる場になる。
- 今後も生徒と学校の話し合い継続しながら、時代に合った校則の在り方を探っていくことが必要と感じた。
- 校則に対する理解を深め主体的に守ろうとする態度を育てたい。

## 2 定時制課程・通信制課程（全日制課程併置3校，独立定時制・通信制課程1校）

### （1）話し合いの場の設定

〔設定回数〕

回数	1回
校数	4校

〔主な参加教職員〕

参加教職員	副校長・教頭	主幹教諭	分掌主任
校数	3校	1校	4校

○主な分掌主任としては，生徒指導主任，特別活動主任

○その他の参加教員としては，生徒会担当教員等

〔主な参加生徒〕

○すべての学校において生徒会執行部役員が参加

### （2）主な話し合いの項目

※定時制課程，通信制課程においては，多様な生徒が在籍することから頭髪や服装に関する明確な校則はない

○主な話し合いの項目としては，校則の必要性，名札の着用，自動二輪での通学等

### （3）校則の見直し

○いずれの学校も頭髪や服装についての明確な校則がないため，これらに対する見直しの予定はない。

○TPOに応じた服装・振る舞いなど社会的マナーについて，引き続き指導する。

○自動二輪での通学については，生徒の安全面を考慮しつつ，その可否を検討する。

### （4）生徒の校則に対する意見・考え方（主なもの，要約）

○校内でのきまりは，社会人として守るべきルール・マナー・エチケットを基準としており，これをしっかりと守ることが，他校の校則見直しの規範となりうることを，生徒会がしっかりと認識し，生徒への呼びかけを自主的に行っている。

○周りに迷惑をかけない，という気持ちをみんなが持っている。

○校則がないことで，自己の責任を理解し，自主的な規制ができています。